

3月のハイライト

- ふいご修理継続中
- トラッカーの修理
- 手鍵盤の清掃・フェルトの張替
- 上鍵盤アクションの調整
- 下鍵盤アクションの組立

▶ ふいご修理継続中

数カ月間取り組んできた、ふいごの修理がいよいよ終盤に差し掛かっています。羊皮紙と羊革を蝶つがいとして構造を組みあげ、その外側に気密を行う牛革のリボンを貼り付けていきます。その後、ふいごの上下動に伴って伸縮する角部分には楕円状の牛革を被せるように貼り付けます。牛革の端部は木材との密着性の向上や剥がれにくいようにするため、一つ一つ漉き加工を施しています。

本作業の途中に、今回羊皮紙を提供頂いた「羊皮紙工房」代表の八木健治さんが見学に来訪されました。羊皮紙という非常にニッチなものに魅了され、製作のみならず高度な研究もなさっている方です。1000年近く前の貴重な聖書写本などもご持参頂きました。今回の見学も踏まえ、7月に音楽と羊皮紙の関わりについて、下記レクチャーコンサートにて御講演されるとのことです。チラシを掲示いたしますので、ご興味がある方は是非足を運びください。

大塚直哉レクチャー・コンサート

バッハ“平均律”前夜 ～月明かりのもと書き写した楽譜たち～
彩の国さいたま芸術劇場 (与野本町駅より徒歩7分)

2022年7月3日(日) 14:00開演



構造体として組み上げたふいご



気密用の牛革リボンを貼っていく



革の漉き加工の風景



角部の革まで貼付け

▶ トラッカーの修理

オルガンは鍵盤の動きを伝えるアクションの一部にトラッカーと呼ばれる長い棒・短冊状の部品を使っています。後者は軽く薄い木片で作ることが多いのですが、一部折れてしまったものや応急処置的に修理され、そのままになっていたものがありました。今回はその再製作を行いました。端部に紐を巻き付けニカフで固めることで補強を行う、バロックの方法に則って修理を行いました。



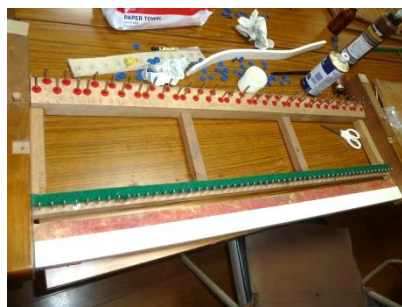
折れたトラッカー(上)と再制作したもの(下)

➤ 手鍵盤の清掃・フェルトの張替

アクションの組立が進み、細かな調整に進む前に、手鍵盤の清掃と消耗品であるフェルトの張替・再生を行いました。このオルガンの鍵盤は真鍮の棒(キーピン)を支点にシーソーのように動く仕組みになっていますが、このピンも経年で腐食などが発生し、スムーズに動かなくなっていたため、きれいに研磨を行いました。また鍵盤には随所にフェルトが使われていますが、こちらもあり減ったり、へたってしまったものが見られました。痛みが激しいものは張替、軽微なものはフェルトの弾力性を回復させる特殊な薬剤で処理を行いました。



鍵盤部を一度外す



キーピン磨きと劣化したフェルトの再生

➤ 上鍵盤アクションの調整

整備を実施した手鍵盤を楽器に戻し、上鍵盤アクションの細かな調整を行いました。鍵盤は高さが一定に、また遊びがなく動作する必要があります。またパイプオルガンは上下の鍵盤を連結させたり、足鍵盤と各手鍵盤を連結させたりするカップラーという機構があり、この動作状況なども調整が必要です。楽器の下に潜っての作業を行いました。



手鍵盤を戻しての調整



楽器の内部からアクションを見る

➤ 下鍵盤アクションの組立

上鍵盤に続き、下鍵盤のアクション組立も始めています。こちらはまだ修理途中の下鍵盤用のチェストが完成するまで完全には完了できませんが、できるところから始めています。



試験的に戻したパレット



改良したアクション部品を取り付け